

かけ橋



令和6年9月28日
小平市立小平第八小学校
10月号

<https://www.kodaira.ed.jp/08kodaira>

想像をはるかに超える大きな夢

校長 井口 修

6年生は、総合的な学習の時間を中心に「小平市をもっとよりよくしたい」「小平市の魅力を発信したい」と、4月から奮闘してきました。話し合いを重ね、商品開発が小平市をよりよくすることにつながるのではないか、と夢を描きました。大人から言われたからやるのではなく、自分で考え、夢を描き、追いかけている、と感じました。6年生が生み出したその小さな渦が、今大きな渦になってきました。

6年1組は、だんごの美好小平店様とご縁があり、6年2組は、丸井国分寺店の柿安様とご縁があり、6年3組は、花小金井のTacos Mercado様とご縁があり、プロの世界で活躍する方と直接お会いし、相談に乗っていただいています。他にも、小平市をよりよくしようと頑張っている方々や、商品開発のプロの方にも直接お会いし、世の中のために力を尽くす大人の感覚も肌で感じました。するとこどもたちの心に火が付きました。夏休みにお店に行って商品を購入し、実際に食べて研究する人。お店の販売実践を見に行き、商品の作り方、並べ方、宣伝の仕方を調べる人。お店にお願いをしてお手伝いをさせていただく人。驚くような行動力で準備を進め始めました。クラスを「商品開発担当」「運営販売担当」「広報担当」の3つに分け、各部署が同時に準備を進めています。商品（案）も見えてきました。

6年1組は、「マロンクリームだんご」「栗のあんみつ」「梨あんだんご」「3種（栗、梨、さつまいも）のくずもち」「ブルーベリーチーズ大福」です。小平の特産と旬を意識しています。

6年2組は、「小平オールスター弁当」を開発中です。9つの枠にどんな具材入れるのか試行錯誤しています。小平ゆかりの5千円札、津田梅子をイメージした「梅の料理」、津田塾大学をイメージした「大学芋」、八小をイメージした「ハチミツの料理」等、小平と八小にゆかりのある食材を意識しています。

6年3組は、「小平とメキシコの8種具材のベジタコス」「小平ブルーベリーとチーズのスイーツ ケサディーヤ」です。世界にも目を向け、小平産の食材だけでなく、メキシコとの友好もアピールします。

さらに驚いたのは、丸井国分寺店の店長様のご厚意で、これらの商品を「第1回小平フェス」に出品、販売できることになったのです。感動です。場所は丸井国分寺店1階、10月16日（水）～22日（火）です。ぜひ足を運んでいただき、こどもたちの思いを受け取り、応援していただくと幸いです。

こどもたちが奮闘する中で、たくさんのご縁が生まれ、たくさんのご支援をいただき、4月の想像をはるかに超える大きな夢がふくらんできました。支えてくださった皆様、ありがとうございます。

6年生のがんばり、そしてそれを必死に支え続ける担任の懸命な姿を見て、私も八小のため力を尽くそう、という気持ちになっています。

最後になりますが、19日（土）は開校60周年記念運動会です。5、6年生の実行委員会を中心に、児童発案で進めています。児童が自分たちで考え、仲間と共につくる運動会を、ぜひ応援してください。

10月の生活目標

「廊下は右側を静かに歩こう」

廊下を走ると危ない、と分かっているのに、なぜ走ってしまうのでしょうか。焦っていたから、授業に間に合わないと思ったからなど、「時間」が関係していそうです。6年生は日光移動教室を通して、時間の大切さを学びました。「1分でも時刻に遅れれば、113名分の1分、つまり113分もの時間を無駄にしてしまう。」集団生活における時間の重みを感じながら、5分前行動を心掛け、見通しをもって行動していました。その後学校生活の中では、授業開始の1分前には互いに声を掛け、着席する姿が見られます。

廊下歩行を始め、様々なきまりや約束を守り、安全で落ち着いた学校生活を送れるよう、時間を大切に指導を行っていきます。

生活指導主

【読書旬間について】

10月28日（月）から11月8日（金）まで、八小の秋の読書旬間です。新しい本が500冊以上入ったこの機会に、新しい本と出会ったり、読書の世界を楽しんだりしてほしいと思います。この期間には、以下のことが予定されています。

一人3冊まで本の貸し出し。

図書委員会が企画する「読書好きを増やすイベント」や保護者の方による読み聞かせ。

図書ボランティアの方に作っていただいたしおりのプレゼント。春の読書週間でも大人気でした！

八小の先生による「おすすめ本」の紹介ポスターを2階渡り廊下に掲示。実際の本は図書館入口付近に設置。

昨年度もこの「おすすめ本」は大人気でよく貸し出しされていました。また、新刊本の貸し出しが10月2日より、始まっています。今年度は学校司書藤森先生と図書委員会の皆さんと一緒に、高学年の皆さんにも図書館を楽しんで利用してもらえるような取り組みもしていきたいと思います。

朝読書や各教科、ちょっとした時間を上手に活用し、児童の皆さんがすてきな本とたくさん出会い、読書を楽しむことを期待しています。

（行事等の状況により、変更する場合があります。）

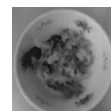


司書教諭

【給食室より】

給食に関することで、とても嬉しく思った出来事がありましたのでご紹介します。昨年度、6年生は一人一人、最高学年として八小のみんなに伝えたいことを考え、作文を書き、校内放送でスピーチする取り組みを行っていました。そのスピーチで、ある児童が給食に関する内容を取り上げていました。その児童は、幼い頃からキャベツが苦手だったそうです。苦手なキャベツを食べられるようにと、自宅でいろいろな料理にキャベツを入れて、キャベツを食べることに挑戦していました。しかし、苦手なキャベツを克服することはできませんでした。小学1年生になり、ある日の八小の給食でキャベツを多く使った和え物が出ました。給食でも苦手なキャベツを食べることに挑戦していた児童は、その和え物を一口食べて、「この料理に入っているキャベツは、シャキシャキした食感がほどよく、料理の塩気とちょうどよく合って、なんておいしいのだろう！」と思ったそうです。その和え物の料理は、「昆布キャベツ」でした。「昆布キャベツ」はゆでて水冷したキャベツときゅうりに、刻み昆布・ごま・調味料で手作りしたたれを和えた料理です。給食で「昆布キャベツ」を食べた後から、この児童は苦手なキャベツを克服し、キャベツを食べられるようになったそうです。

給食で出た料理を食べた後、苦手な食べ物を克服したという話を聞き、非常に嬉しく思いました。昨年度のことですが、今でも心に残っている出来事のひとつです。学校給食では食に関することを学ぶため、幅広い様々な食材を使用します。こどもたちが学校給食で初めて食べる食材もあるでしょう。人は初めて食べるものを避けることがあります。これを「新奇性恐怖」といいます。しかし、食後、体調不良等にならなければ、それ以降は安全だとわかり、食べられるようになることもあります。初めての食材を食べる時は、食材の見た目や食感、味、においなど、印象に残りますので、こどもたちに「おいしい！」と思ってもらえることが大切だと考えています。また、初めて食べた時に「苦手だな。」と感じても、年齢を重ねるごとに苦手だった食材がふとした時に食べられるようになることがあります。こどもたちには苦手なものでも一口は食べるように挑戦してほしいです。学校給食を通じて、こどもたちが元気に過ごし、食の幅を広げていけるように、安全でおいしい給食の提供に努めていきます。



栄養士